

「タイトル」 苔彩 一京の美は苔にありー

「氏名」 寺本 美幸

京都の宝といえば伝統や寺院、庭園など様々なものが挙げられます。歴史的文化財の寺院や庭園などは、日本独特の造りや色彩にとっても風情があり、その風景こそが京都・日本の「宝」であり「美」であると考えます。

風景を彩る中で私の目を引いたのが、至るところに生えていた苔の色彩です。鮮やかな黄緑、深い色味の緑、雨露で潤んだ緑、赤味のかかった緑、と様々な苔の色彩がとても美しく感じました。

そこで・・・例えば、日本の世界遺産である西芳寺庭園、西芳寺黄金池、黄金池根橋、高山寺、高山寺参道の杉木立、天龍寺の庭園、龍安寺の庭園などから苔が亡くなったら取り除いたらと考えると何とも一気に風情が失われると感じませんか？苔の色彩、苔の存在は、そういった景観の中でとても重要な要素であり、京・日本の美を支えていると言えます。

日本には苔植物が約2500種あると言われています。2500種ということは苔の色彩や苔の質も2500通りあると考えられます。そこで、苔の色彩(今後は「苔彩」といいます)に注目し制作することにしました。二回生では苔の図鑑や苔を知ってもらう為のプレゼンボードや苔の楽しみ方などを書いたレポートを制作し、三回生では寺院、庭園、公園などの苔を写真に撮って回り、美しさの象徴を表現するものとして、様々な種類の苔彩や模様をモザイク状にした「モナリザの苔の美笑」というポスターを制作しました。

